

三月分調査整理月報附録

細部の著意を必要とする調査究明の事例集

其の五

昭和二十七年四月十日  
中部復員連絡局名古屋支部



0145

細部の着意を必要とする調査究明の事例集 其の五

一 戸籍記載事項より復員を發見した事例

第ニ課 所不 海回芳雄 20.6頃ハルピンにて現地應召

右は昭25.6.28北海道旭川市より當縣に轉籍受け入れせるもので

8.1届なく3.1届は父から提出されていた

25.7.26戸籍記載証明書を受け奥檢するに妻のあることを知り妻

につき調査せるに妻は在滿時病氣となり終戦前に歸國しあるも

父と折合悪く妻の實家に歸り交際なし

其の後鋭意調査せるも手懸りなし

最近に至り妻が本籍を現住所に移したらしいとの資料に基き新

戸籍記載証明書と要求せしに妻は新戸籍を編成し旧姓清水

となり海回芳雄は妻を離籍し他の女と結婚長女出生しあるこ

とが判明したので戸籍届出地へ照會せしところ

み11.25復員し大阪世話課で復員手續を完了しあることが判明した

應召部隊名世記憶なく、哈爾濱の斎藤大隊とのみ記憶す  
所見

一、その年頃の調査が各縣とも十分でなかつた爲縣相互の連絡がうまく  
つかなかったことに最大原因がある

二、父、妻は共に今迄若雄の復員を全然知らなかつたと言っているが更に  
突込んで調査していったら何等かの端緒を得たのではなかつたかと思ふ

三、留部の資料を洗へば何か出るのではなかつたか(曾て本人同様現地應  
召で所不の無資料者が歸還しあることも發見したがその直後留  
部歸還者名票がみ連で送られて来た例もある) (愛知)

二邦人調査との連絡不十分のため歸還を發見し得なかつた例  
妻からみ届及びみ届提出届によれば

軍属 吉川太郎 第三三八部隊 昭16渡満其後現地應召

昭10以来音信なし

四平燃料廠所屬として鋭意調査せらるも資料なし

0147

が推定され、それから結果的に見てハルピン関係部隊の關係收容所は(調)任としても資料が上つたのではなかつたかと思ふ

(石川)

八(調)部隊の編成表に記載してある姓より端緒を把握した例

(歸還者の覺書により作製した編成表は此の有效果あり)

一三五師特より一三五師銃火へ 二等兵 上原他家男

二二五五東道義勇軍より應召同義勇隊員で二二五五頃代馬溝

附近で逢ふものがある

3. 右資料により基礎資料としては應召部隊は判然としなかつたが應召年月日、戦斗場所等より歩三六八連若しくは歩三六九連を主として調査

してゐるが資料が上らなかつたので銃火轉属？との著意で一三五師銃火

編成表を入念に調べたところ、二中、三小、五分の編成表に「二等兵上原(在

満)」とのみあるを發見、同分隊の歸還者に照會の結果同氏に相違な

いことが判明した

(石川)

九、整理担任部隊の歸還者より判定し得なかつた所屬部隊及細部所屬が

同隊よりの轉出者により判明した例

一歩二七八連四中 二等兵 西村三郎

二、205中甸頃平陽部隊に應召とのみで他に得ることが出来なかつたが従来より一三方師通を整理担任とし歩二七八連、輜一三方連を調担任として来た

三、しかし歩二七八連を最も公算大であるとして各中隊の現地應召者について

ついて通信調査を實地したが反應がなかつた

四、轉属公算を考へ先づ一三方師換大の現地應召者について調査した所歩

二七八連四中に同時應召し207上甸提供者が換大轉属時まで六三号

陣地に入ることが二人の提供者によつて裏付けられた

(石川)

十、處理不能覺書の活用により提供者に再照會して端緒を把握した例

寫真を見せ思ひ出させる手段も勿論有力な手段ではあるが歸還者の最も記憶に残る者と覺書としてとり置き消化する手段も尚價値を存するたとへ氏名等が多少間違つていても部隊等が判明されば効果がある。

一、二方師輜二中

二等兵

山崎榮作

又當初東進義勇軍より銃河部隊に應召したと云ふので歩三方八連として調査中應召前北海道へ傳習生として派遣中同時に召集を受け歸滿したものより山崎氏のケは20.5.31頃平陽の輜重隊に入隊したと云ふ資料と入手した

3. 偶々時と同じくして滋賀縣世話課より「氏名不詳一、二方師輜二等兵、當時は才位、22.6.21タイセット九分所にて死亡、北海道に伯母がおり」と云ふ函見書を受領し、同一人ではなかつたかの疑を打ち、留守宅に對して「北海道に伯母の有無」と尋ずると共に提供者に寫真と附して確かめるところ共に「本人は間違いない旨の回答に接し直ちに死亡見込者とされた

(石川)

十一 歸還者總當り主義と徹底して所属中隊を決定した例

一、歩二七七連九中

二等兵

館 清喜

又基礎資料

20. 5. 11 奉天滿鉄總局より八面通歩兵部隊に應召(五月應召の兵から歩二七七連と判定)

間もなく應召直前の歯の手術後の症状を? 八面通に病に入院同伊藤隊竹隊より音信があつた外一切不明

3. 歩二七七連所屬として二十五年年度當課の且任の時中隊不明として通信調査と實現したるが何ら資料と得ることが出来るか

(發送数六〇二通)

4. 八面通陸病外科病棟勤務者にして通信調査の結果「開戦前一ヶ月前?」に退院したと云ふ資料一件以外なし

(發送数三〇通)

5. 滿鉄總局面から基礎資料の収集に勉めた結果同時同部隊に應召した者の一名があつて、調査の結果歩二七七連への入隊は間違なく中隊不明との返答に接した

(發送数二〇通)

0151

提供者は自分の中隊は忘れていたが編成表で見ると五中となつてゐる。  
6. 歩二七七連に間違ひないことの確信を得たので留部に於いて掌握して  
ゐる五月現地應召歸還者全員(五中を除く)に對して通信調査を  
實施した結果九中隊に於いて教育終了時まで一緒にゐたもの二名を把  
握した(發送数二七四通)

7. 二名共に陣地につき頃までの記憶のみでその後の記憶全く残留したため  
は如何かと提供してゐるのは八面通陸橋に入院したためと判断せられる  
8. 今後の調査に於ては退院後本隊に復歸したか八面通に残留したかの  
両面を考えて現地應召歸還者以外を對象とする調査が必要と  
ある (通信發送数 總計九二六通) (石川)

十二. 無資料者究明の例

1. 未歸還者 二國、歩二等兵 古川金次(明灯堂)

2. 究明前の基礎條件

1. 十数年前より渡満して居た、1916 遼牡丹江軍人會館の増築作業

9.

0152



さしていた。當時新京の土木建築業辰村組に属して左官をさしていた  
只八一属は弟より呈出されたもので元同辰村組に居り邦人として引揚  
げた人から1966中旬應召して牡丹江附近の部隊に應召したらしいと  
のみしか判らない

### 3. 調査完明の経緯

1. 本格的に完明したのは58基礎資料再調のため留守宅を訪問  
して弟及び満州で同じ組だった網各吉次郎及び應召前まで約二  
年一緒にいたったことのある鈴木常夫氏等の協力により基礎資料を  
左の通り確認し得た

A. 現地應召は確實

B. 補充兵で1ヶ月程教育召集を受けたことあり

C. 入隊場所は牡丹江附近の部隊と思ふ

D. 時期は20.6頃である

家族は父母死亡し弟の一名は戦死、本人は5才頃渡満してあるので弟

0153

達(三人)は幼少であり基礎資料については十分知っている、本人は  
独身であった

12.25.6に高尾の懇會の必要その親戚等に懇會して小學校卒業時  
のもの一枚あつたのみ

ハ27.1.16本人の妹高松キフエに調査したのが新資料なり

A. 20.6.15頃航空便の音信があつたと思ふ、便りは紛失したが10部隊?

B. 本人は小學校卒業後左官見習として富山市内で奉公していた

C. 父と意見の合はず昭和12年に没した

D. 親戚が若干あるから聞いてくれとて数人の提供あり

ニその後叔父古川耕三叔母積木某を訪ねたが新京にいる頃便りあ  
つた切り全く音信がない、應召したことも全く知らない

ホ、22.2.21新潟縣世話課において歩兵八回連の合調時出席した富山

縣の20.5.の現地應召した者から一中隊の編成表に同時應召した  
古川金次が編入されているのと申出た者あり、出席した(一中隊の酒井

10

0154

金作氏より) 課員は一應覚書として掌握して来た

へ、又、23 提供者酒井金作氏を招致して前記資料を確認し得るこ  
共に同氏より本人は20、5、17同時に東京宇54部隊に現地應召し一中  
(佐藤隊)に編入開戦時は同小隊同分隊に在りて赤嶺山の戦斗に  
参加し、その後赤嶺山より完勝山に後退中別れて以後不明、平時活  
弁が得意で娯樂會に度々出演して人氣があつた、特徴、高鼻等  
合致しており確實を期した

ト、弟に活弁の件照會したところ相違ないとの回答あり

4 其の後の調査及び所見

1 所属部隊戦斗場面が決定したのでその後追撃調査中

2 本件については本人の基礎資料が十分掌握し得ず、應召部隊の判  
定困難であつたことが最も遅延した原因であつた

3 提供者酒井金作氏は26、復員その後課よりの通信照會には回答が  
なく、又招致調査にも出席していない

0155

二、復員者個人の保有資料を悉く收得し吐き出させるとゆうことが戦後  
七年になる今日でも重要なことであり機会ある毎に米調査の歸還  
者と徹底的に調査する要がある、特に在満應召者において然りと  
思われる

(高木)

0156

又々本人専と共々突如出現し、みづから歸還しあると知る本人は邦人であらう

満洲第二三八部隊で属ある理由

本人は満洲理化学工事會社の社員として勤務中第二三八部隊の兵舎壕舎彈藥庫等の土木建築に従事し、家へ第二三八部隊として通信していた。専は第二三八部隊の軍属と考へた

専が歸還を知らなかつた理由

専は戦災に過い終戦後も轉々とし、而も本人の親戚とも全然交際がなかつた。最近轉宅のことで止むを得ず本人の従兄宅へ行つたところ、本人が歸還しあることを知らされた

本人は胎ぶる東京へ出張の際、専の所へ行つたが、戦災のため行方不明であつたから、其の終四年に歸り、みづから歸還の際、は豊川市の援護寮に收容され、約半年を氣静養その間、専の所在を探したが判明せず。従兄のところへも行つたが、専の所在がわからぬ。終今日に至つた

二

0157

所見

一邦人歸還者名簿(金子三連合會調製)と異檢したところ名簿に記載されてある此の名簿の異檢が不十分であつたことと失敗の最大原因がある

二基礎資料調査を廣く親戚知人に及ぼすことが必要である

(愛知)

三有資料から(公)となり此の細の着意から再び有資料としを例

歩二七七連隊 金子孝夫

一留奇宅属部隊 満七五九部隊

二前任者が留部と協議判定せる部隊 野砲二六連隊

三現在迄野砲二六連隊としていた原因

歩二七七三連に金子要人なるものがありユムソリスク一二分所で通訳と言ふ特別職についていたので金子通訳として知るもの多く要人の資料が上陸地及各地に於ける合同調査に於て孝夫と違つて覺書となり

0158

受領してないので所属を余り重視していません

4. 所属の違いと発見した根拠

歩二七三連五中長福沢少尉を招致調査せる時コムソモリスクで  
通訳をしていた金子は要人と言ひ私の親戚関係の者だとの証言と  
得たので留守宅の再調査を實施せりも留守宅には所属判定資  
料となる通信の一切を紛失し記憶もなく親戚及友人関係の調査  
を實施した處時期は不明なるも満八八部隊よりの来信一通を發  
見したので一應部隊を歩二七七連とし調査中の處中復れ於けるコ  
ムソの合調時金子孝夫に對するコムソの資料は金子要人のものであ  
るとの証言により所属を変更し無資料とした

5. 有資料とした過程について

友人に來ていた來信を詳細に検討した處通信文の終りに薄く松の  
一字のみが判讀される程度仰と発見したので之を分隊長級の檢印と  
判定し手持資料の一切を調査した處五本之機七中松のつく姓を

3.

0159

有する下士官のあぶき発見したので取敢て手持資料中より前記  
三個中隊の歸還者で住所の判明しているもの約七〇名に通信調査  
をした結果所属は二機一小二分であり⑦戦場生の資料を得た

(愛知)

#### 四、總當り調査の例

八野一三五連 中島率次

下軍歴 19.1.10.中部八〇部隊(鯖江)入隊

19.6.頃渡満三一〇八部隊(菊池)隊配属

20.6.20.右部隊(菊池)今(今)隊より来信

口満三一〇八部隊が20.3.矢退中尉以下若干名を残置し主力は神奈

川縣に轉用になりその残置者は

歩三六八連ハ20.3.20.約一五〇名(但し20.2.下旬釧路に集合の上入隊し

た菊池(今)隊の者が多い)

歩三六九連 20.3.24.25. 約四回名

0160



歩三七〇連 若干あると思われが不明

野一三五連 約五〇〇名となっているが調査の

當初に於ては未だ配属状況資料がなく一應歩三七〇連に於て調  
査と實施してゐるが否として判らぬ留部宛同軍歴の歸還者  
名簿を要求したところその歸還者の殆どが野一三五連隊の三大  
隊であることが判明、一通り通信照會を實施したしかし資料は  
出なかつたそこで右歸還者名簿並に残置者の配属状況及兵種  
が辺整手配なるに着意し野一三五連三大隊と判定し更に同部隊三  
大隊の歸還者名簿を留部に要求し總當り通信照會を實施  
したところ一部の回答者より開戦時の資料は不明なるも所屬は  
同部隊の八中隊なる確証を得たので反復通信にも照會と繼  
續し漸く開戦時密山の残留隊に所屬してゐた事實が明らかと  
なる(寫真提示済)

尚最近三大隊本部の歸還者より入りの資料を得たので寫真を確

0161

認中

ニ歩二四六連 田中新吉

不留守宅番出部隊 昭和20.5.10 春北部隊

口所属判定の根拠

應召歴目録より歩二四六連と判定細部所属を兵糧より歩兵  
砲関係と判定

ハ有資料と云った過程

細部所属判定の裏付と得るため本部各中隊特に砲関係と重  
兵とし幹部級總當り調査を實施した處Ⅲ副官(前二機付)よ  
りⅡ砲小隊といふとの裏付を得たので留部よりⅡ砲の歸還者全  
員の名簿の送付と受け通信調査を實施し⑦有資料とした

(受知)

0162

五職域面よりの調査で無資料から有資料(邦人)に判明した例

一 完明前の状況

一本籍

静岡縣

口未復員者 陸軍造兵廠軍属 同司 昭和4年生

ハ留守宅資料

昭19.5 勃利開拓青少年義勇軍訓練所に入所

昭20.4 中旬 満洲第一七三軍事郵便所氣付

満洲第九八部隊吉村隊より来信

二 完明の経緯

一 従来迄は主として同部隊復員者のみに着眼して調査してきたが資料

料が無かった

口調査着眼を職域面に移し同訓練所歸還者を調査したところ

次の通り判明した

・A. 訓練所の者は勤勞動員で従事し軍属ではなかった

終戦と同時に造兵廠より勃利の訓練所の者と合流するその新  
京迄きたが合流できず分散この時内回と別れた

B.その後昭三子頃資料提供者が新京で豆腐店で働いていた時  
訪ねてきた事がある

C.他に終戦後新京迄の同行動者よりの資料は名得た

### 3. 参考

現地應召者及びこれら類似の者は先づ職域面よりの調査が重要である  
(静岡)

六、現地應召者の同一者調査で無資料から有資料に判明した例  
八、究明前の状況

不本籍

静岡縣

口未復員者

一七野貨廠

芦澤 淳

八留守宅資料

昭三子、満洲七四部隊現地入營(四平市在住)

0164

その後満洲二十六回部隊中島隊より来信

不明の経緯

不従来迄同隊復員者について全国的に相當調査を實施してきた

が全く資料がなかつた

最近更に本縣同隊復員者の身上申告書を仔細に調査し同日

四平市より満洲七回部隊(独自七〇)に入隊した者も照會したところ

次の通り判明した

A. 同隊に入隊しよく知つてゐる

B. 轉属する時と同じく同隊の同小隊に轉属した

C. 昭二〇八林口の戦斗迄同一行動者であつた

3. 参考

不従内資料を仔細に検討するとき未だ調査の余地は十分ある

口米復員者調査名票調製前には本人について照會した記録もな

いので照會済否が不明の者も更に再照會の必要がある

0165

ハ現地應召者は古参兵が面識少い場合が多いので同日同隊入隊後  
眞者さ着眼する要がある (静岡)

七調 收容所の合調に調査名票(寫眞添付)を送付して死亡資料を得る例

一歩三六八連よりハルピン部隊に轉属? 二等兵 西村政太郎

二歩五二奉天より満洲ハ七部隊三浦隊に應召し一ヶ月位教育後10名位

と共にハルピン部隊に轉属か

三歩三六八連を整理担任とし轉属關係についてこの面より調査する一方向

三六八連の主力が入ソレたイマン地区及タイセット地区と世話課としての

調 收容所として調査中偶々廣島支部のタイセット地区合調に調査

名票を送付したところ寫眞により西村氏を思ひ出しそれを端緒と

して作大中隊長中隊附外一名の確度甲の死亡資料を得た

ハ提供者はすべて輜下士候隊所屬で收容所に於いて一緒になった他の入ソ

作犬より同患者を申し受けたものである

五同時ハ作犬編成關係から同氏の轉属部隊はハルピン造兵廠であること

結果今迄不明であつた本行動群の行動及博克圖西方糧秣倉庫に於ける戦斗状況を明らかにして戦死九名(内状況不明者七名)の現認書を収集し得た

口支部担任独歩五八七大隊の本年度収集し得た資料を總整理し関係官署に通報(名支業第六五〇號)すると共に留守業務部に資料悉く皆移管の準備を實施した。本部隊は現在未歸還者四五名となり内二四名(五名)は現認(確認)書を入手し其の他は④及他部隊に調査を依頼するものであり部隊資料も略々完成したので今後合同調査の必要はないものと認められる

### 三、收容所及び地点関係

昭和二十七年年度調査整理業務實施計畫案に基く非要調査收容所及び地点関係未歸還者名簿の整理及び資料区分による分類と實施し二十七年年度調査の準備を實施した。尚既得資料の整理(ウチロシロフ地区、セミヨノカ地区、イマンカ地区、コムソリスア地区、ルーチ

ヤン地、アルブの地、ハバロフスク地、ホルモリシタ地より牡丹江に  
逆送状況を調査し担任拉古地点逆送死亡者中の未把握者誘導  
を準備した

管内世話課所属不明無資料者の調査状況書により究明用カード  
に所要事項記入しその後調査対策資料の整備とした

(管内世話課所属不明無資料者名)

#### 四 合同調査参加について

三月四日外務省主催の牡丹江地区邦人調査會同が岐阜世話課に  
於て實施せられたので關係係官と参加した。招致人員の書類が務  
期に比して少なく特筆すべき参考事項としてはなかつたが支部担任  
古地真の邦人收容所關係の入院患者に對する好資料保有を把握  
出来たのは有効であつた

三月十九二十日留守業務部主催により中部復員連絡局に於て「タ  
セット收容所」の合同調査が實施せられたので關係者を参加せしめた



本會同は海林ノ大隊及タイセツト第七病院の好資料保有者を招致して個人資料就中處決資料の獲得を旨指して實施されたが出頭状況も良好にして且出頭者の終始熱心なる協力と主催者側の周到なる準備及び適切なる實施により相當な成果を収められた

當支部管内関係死亡現認(確認)六名、骨書五名を得た

3. 三月二十四日京都世話課担任乙部隊独工一二連隊の補備調査を名古屋市内に於て實施されたので関係者を派遣し協力せしめた  
名古屋市中心とした近在の関係歸還者を招致せられたので出頭率もよく相當の成果を収められた様である

#### 五支部に於ける合同調査

月間左の如く支部に於て合同調査を實施せられたので支部を擧げて之に協力した

1. 三月廿七日 歩二下候(留部第三課主宰)

本調査は原隊送出面より系統的に入校し開戦による戦斗編成区

4

0169

分一戰鬥參加人員の掌握特に磨刀石に出動せる猪股大隊の戰鬥(行動)群の人名及び行動を明かにして状況不明者の死亡認定(推定)局面の資料を収集左の如き成果を得られた

不猪股大隊磨刀石の戰鬥状況は概ね掌握し道路上肉攻小隊に編入され死者の死亡認定(推定)諸元についての細部資料を収集

口和澤大隊湯治挺進隊の編入者約三〇名の人名掌握

・握り飯事件の細部状況掌握

ハ小松連隊

未歸還者約六〇名の大部は終戦後東京城より爾站に後退中満人及ソ軍に射撃された者が大部と判明

ス十一、十二日ウオロシロフ地区ノ一二リスフ病院、五老里増田大隊合同調査

(留部東京出張所第一資料總班第一班主宰)

ス十三、十四日コムソリスフ地区收容所及病院、東京城二七〇、二七一、二七三大隊

合同調査(留部東京出張所第一資料總班第二班主宰)

0170

夫れぐ地已該當要處理者と掌握してこれが最終調査局面を決定す  
ると共になし得る限りの確認資料と獲得する方針のもとに實施せら  
れぬが豫想以上の出頭者の協力と乍前準備の周到と調査計畫の綿  
密により夜半深更れ亘る當日成果資料の整理の結果を翌日の調  
査に投入更れ資料の補充確認をはかる等により多大の成果を収め  
られた事は誠に喜ばしい次第であつた

ワオロシロフ地区

現認(確認)書

二

覺書

八

コムソモリスノ地区

現認書

一

覺書

一

六其の他

三月二十三日復員局に於て實施せられた連絡局長支部長世話課長  
會同に參加し主として懸案の援護法案に關する普及を受ふるに共

0171

に諸業務の指示及連絡があつた。講和條約發效と共に軍人軍属の  
遺家族に對する國家としての補償的核護が實施せらるる運びとな  
つた事は眞に慶賀に堪へない次第であり萬難を排して業務の円滑  
確實なる遂行を期せぬはならぬ。

0172

昭和二十六年度 管内世話課 未帰還者減少状況一覽表

世話課	資料区分 年月区分	A 帰還者		B 未帰還者数			不明者		計	地無資料との 不明者との 差	不明者との 差	
		帰還	死亡	生見存	死見込	推定	有資料	無資料				小計
愛知	26年4月始	5429	2772	242	52		1026	258	1284	1578	50	12.5
	27年3月末	5201	2905	247	50		1025	122	1147	1444	194	10.7
	増減	+2	+133	+5	-2		-1	-106	-107	-104	+44	+1.2
静岡	26年4月始	1320	2060	171	58	2	927	211	1138	1069	54	12.2
	27年3月末	1320	2489	178	86	2	908	72	980	1246	10.6	10.4
	増減	±0	+129	+7	+28	±0	-19	-109	-158	-120	+8.2	+1.2
岐阜	26年4月始	842	1641	118	74	2	552	71	623	817	8.8	10.2
	27年3月末	842	1608	120	58	2	591	48	639	749	10.4	14.4
	増減	±0	+67	+2	-21	±0	-21	-28	-49	-68	+4.6	+1.2
三重	26年4月始	741	1249	116	16		477	90	567	659	5.8	14.0
	27年3月末	741	1111	120	85		468	41	444	599	70.8	15.4
	増減	+1	+62	+4	+19		-8	-49	-80	-60	+5.0	+1.4
石川	26年4月始	699	777	142	124		488	42	530	791	12.5	10.6
	27年3月末	699	819	129	127		468	80	498	754	16.6	11.0
	増減	+1	+42	-13	+3		-20	+38	-27	-57	+4.1	+0.4
富山	26年4月始	847	827	129	68		886	57	943	640	7.8	15.4
	27年3月末	847	868	100	55		880	29	912	600	14.2	16.4
	増減	-10	+41	+4	-13		-6	-28	-31	-40	+6.4	+1.0
計	26年4月始	5442	9720	718	292	4	3811	729	4540	6456	6.0	12.5
	27年3月末	5201	9810	727	406	4	3718	679	4397	5990	10.1	10.8
	増減	-9	+498	+9	+14	±0	-93	-50	-443	-466	+4.1	+1.0

附表第一

昭和三十二年  
世話課長  
支那課長

附表第二

合計	3月			2月				1月		12月	11月	10月	9月	7月	月別			
	16 ⑤⑥ 支組 3.13	コムソモリスク	ウオロシロフ地区	歩二下 ④ 支組	一二四 輜重	工兵 一七		歩 二五	北 七 航 情 廠		一 九 故 大	歩 二五 回	敦 化 地 区	拉 古 地 島	独 歩 五 八 七 火	独 歩 五 八 回 大	アルナヨム地区 ⑤	名 古 屋 支 部
8 ④⑤⑥ 支組 3.15	吉 林				輜 一 一 七	砲 一 二 八			陸 九 二	陸 九 二	陸 九 二	フ タ イ セ グ ツ エ ト 地 区	フ タ イ セ グ ツ エ ト 地 区	ハ ル ピ ン 地 区	ハ ル ピ ン 地 区	延 吉 方 回 方 収	管 場 内 世 話 所	
	岐 阜				三 ④ 支 組	三 ④ 支 組			静 岡	静 岡	静 岡	静 岡	静 岡	静 岡	静 岡	静 岡	静 岡	静 岡
																	摘 要	

支部管内合同調査實施表

昭和二十七年三月末  
支部調査

主要業務處理狀況一覽表

昭和27年3月末調

A表 調査状況表及びその成果

全般 について	1. 2月実施し乙部隊の24名籍重の個人資料を整理し関係世話等に送し		2. 管内各資料者の調査局面の検討を実施し27年度末資料者調査の準備を行う		3. 支隊担任部隊独歩58大隊の補備調査並本年度収集せる資料の整理を実施する		4. 担任部隊独歩58大隊真所屬部隊以外で調査を必要とする者の調査依頼の返信を行う						
	I		II		III		IV						
		招致人員数 (招致職員)		出類人員数 (招致先人員)		調査の概況		未復員者の個人調査					
		当月	累計	当月	累計			① 調査指定(指定)部隊に 所属するもの調査 管内 管外 小計					
歸還者留守 宅と招致す る調査	歸還者 留守宅	0	153	0	65			要調査 人員数	年度初 当月初				
歸還者留守宅と 招致する調査	歸還者 留守宅	0	0	0	0			調査済 人員数	当月 末人員数				
窓口調査	窓口調査	(1)	(3)	(1)	(4)	指定部隊独歩58大隊 代見士以下約10名の博覧園に於ける 生存者名簿を調査し 死別認り数を得た		高月末未調査人員数	426				
通信調査	通信調査	送信数		回答数				② 支隊調整 部隊の分					
調査	調査	当月	累計	当月	累計			計					
調査	調査	0	6694	2	2208			計					
調査	調査	0	2629	2	1102			計					
調査	調査	0	0	0	0			計					
調査	調査	0	4065	0	1106			計					
III		名票(單位枚)				骨書(單位枚)		究明用カード(單位枚)		内数照合表(單位枚)		歸還者名票(單位枚)	
		甲名票	乙名票	丙名票	丁名票	骨書	究明用カード	内数照合表	歸還者名票				
		当月	累計	当月	累計	当月	累計	当月	累計	当月	累計	当月	累計
調査	調査	0	12	0	0	11	11	0	0	181	288	17	90
調査	調査	54	1283	3	36	22	200	0	18	181	881	17	61
調査	調査	54	1294	3	40	11	253	0	18	0	93	0	0

別紙第六

B表

主要業務処理状況一覽表

名古屋支部  
昭和27年3月末調

0176

		前月の繰越数	当月受数	当月処理(移管)数	翌月の繰越数	処理数累計
I	遺骨	3	2	3	2	29,752
	遺骨	0	0	0	0	580
	遺留品	1	(贈品1)	(贈品1)	1	2,177

		当月未 届管總数	内				その他 のもの
			関係世帯 送移管送のもの	交付先 本籍地不明のもの	調査中 のもの	山計	
II	遺骨	2	0	2	0	2	0
	遺骨	0	0	0	0	0	0
	遺留品	1	0	1	0	1	0

参考

	愛知			静岡			岐阜			三重			石川			富山			計					
	死亡 公報	遺骨	遺留品	死亡 公報	遺骨	遺留品	死亡 公報	遺骨	遺留品	死亡 公報	遺骨	遺留品	死亡 公報	遺骨	遺留品	死亡 公報	遺骨	遺留品	死亡 公報	遺骨	遺留品			
留管担当者受領 の意思の旨のもの (3) 取人断現	6	0	20	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	9	0	20
調査先(本籍地不明のもの)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	3	2	0
調査先(現在所不明のもの)	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0
調査先(その他)	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	12	0

参考

	招致調査 (職員派遣調査)						窓口調査						通信調査															
	愛知	静岡	岐阜	三重	石川	富山	計	愛知	静岡	岐阜	三重	石川	富山	計	愛知	静岡	岐阜	三重	石川	富山	計							
招致人数	0	27	10	12	0	242	291														發着月	11/16	501	576	197	1135	94	3679
招致人数 (職員)	(42)	(40)	(16)	(2)	0	(14)	(60)														信着月	20/6		6790		10,466		45,452
出頭人数	0	22	6	9	0	13	50	98	339	7	1	14	0	459							回着月	5/6	252	301	147	252	88	1,636
招致人数 (先着)	(58)	(18)	(1)	(5)	0	0	(24)														答着月	6/3	3679	3271	2690	4211	2035	21,899



別紙第八

當月實施した調査究明関係の主要行事に基く  
將來の参考意見

一全般について

昭和二十六年年度調査業務の反省

昭和二十六年年度も補償業務の準備作業の爲め世話課の調査能力減退し年度頭初に豫期した成果は擧げ得られなかつたが支部及び世話課共に主要業務を自ら担任部隊の調査及留部が當地に於て實施した合調に對する援助には萬難を排し努力して所期の目的を達成し得た事は同慶の至りであつた。尙無資料に對する調査も世話課の努力の結果年度末には相當の減少を來せし空五七七を除き愛知五六、静岡七二、岐阜四三、三重四一、石川三〇、富山二九となり何れも有資料状況不明者の一割以下に壓縮する事を得た事は亦同慶の至りである。然れども有資料状況不明者の数は尙相當数を残して居

0177

る状況であるから新年度は更に心氣一轉周到なる準備及計畫の本  
 に發刺たる意氣を以て各種の困難を克服突破し上司の本年度企畫  
 する調査及整理業務の目的を達成する決心懸け以て未復員者及  
 留守宅遺家族の心に添へんことを期する次第である

二十六年度に於ける成果の概要は次の通りである(世帯別細部状況は  
 附表の通りである)

イ 歸還處理 一方名(本年度初の未歸還者の 〇.三%)

ロ 死亡處理 四一九名(本年度初の未歸還者の 七%)

ハ 状況不明者の狭窄 四一三名(本年度初の未歸還者の 七%)

ニ 無資料者の狭窄 三三二名(本年度初の未歸還者の 五%)

ホ 所属不明者の狭窄 五五名(本年度初の未歸還者の 五%)

又支部及支部管用世話課に於て実施した合同調査は年間二四回(會  
 部主宰一八回、支部主宰三回、世話課主宰三回)で細部は附表第三の  
 通りである

3. 本年度支部で實施した非要調査部隊調査成果一覽表附表第三の通

りである

※本年度支部遺骨遺留品取扱件数附表第四の通りである

二 部隊関係

管内世話課の非要調査部隊に属する無資料者の調査場面検討を  
實施するため世話課の調査名票より今後必要なる資料を整理し支  
部としての調査名票を作製した。

管内非要調査部隊無資料者 18名中

一 課関係 93名作製(内非要調査部隊無資料者 62名)

二 三四課関係 76名作製( 76名)

六留企第ニ六三六號ルより當支部担任部隊で眞所属部隊以外に調査

を必要とするものの完明用カード(寫)を作製し留守業務部関係

各課に送付調査依頼した

一 二回輸重 16 二八二連 6 独歩五八七大隊 7 計 31

三 第一課関係

支那担任乙部隊第一二四師團輜重隊の調査成果(個人資料)を整理し名支書第611號により之と関係世話課に送付した  
(成果は二月分整理月報に記載の通り)

4. 第二課 第三課 關係

乙部隊担任乙部隊独歩五八七大隊の中村山陣地より脱出せる田代見出以下十名群の補備調査のため本行動群中唯一名の生存者「松本茂」(大阪府泉佐野市)に對し主任者と派遣訪問調査せしめた

0180

別紙第三

B表 ソ連関係地域当月処理(増減)詳細表

名古屋支那  
昭和27年3月末調

0181

増減 区分	高月処理数		未復負数						計	合計	
	歸還	死亡	生存 見込	死亡 見込	死亡 推定	状況不明					
						有資料	無資料	小計			
当月増減数	+1	+179	-2	-8	0	(-23)	(-45)	-68	-78	+3	
既 増 減 数 の 内 者 補 正	(1) 歸還處理	+1	0	0	0	0	(-1)	-1	-1	0	
	(2) 死亡處理		+179	-1	-66	0	(-13)	0	-13	-80	0
	(3) 状況不明の生存見込			+2			(-2)	0	-2	0	0
	資料別区分変更 状況不明の死亡見込				+53		(-29)	(-24)	-53	0	0
	状況不明の死亡推定					0	0	0	0	0	0
	有資料より有資料						(+22)	(-22)	0	0	0
	上記以外の区分変更			-3	+3	0	(-1)	(+1)	0	0	0
	(4) 地域別変更	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	籍籍移管	0	0	0	+1	0	(-1)	0	-1	0	0
	別除(邦人)その他	0	0	0	0	0	0	(-1)	-1	-1	-1
(5) 新把握者	0	0	0	+1	0	(+1)	(+2)	+3	+3	+4	
備考											

+3の内訳	
愛知 -1	籍籍移管-1
静岡 +1	籍籍移管+2, 別除(邦人)-1
岐阜 +3	新把握者+3
三重 +1	新把握者+1
石川 0	
富山 -1	籍籍移管-1
計 +3	

増減 已分	生存見込	死亡見込	死亡推定	状況不明			計
				有資料	無資料	小計	
前期末(當期初)人員数	38	7	4	(289)	(76)	365	414
當期別 已分 変更 の 更	①より生存見込	/	/	0	0	0	0
	②より死亡見込	/	+14	/	(-12)	(-2)	-14
	③より死亡推定	/	/	+12	(-10)	(-2)	-12
	無資料の有資料	/	/	/	(+20)	(-20)	0
	上記以外の已分変更	0	0	0	0	0	0
増	死亡及び死亡確認	0	0	-4	0	0	-4
減	所属変更 編入	0	0	0	0	0	0
	(所属判明) 轉出	0	0	0	0	(-1)	-1
況	削除(邦人海軍)	0	0	0	0	0	0
	歸還	0	0	0	0	0	0
計	0	+14	+8	(-2)	(-25)	-27	-5
當期末人員数	38	21	12	(287)	(51)	338	409
備考	1.調査担任 他の調査部面へ 甲(2) 乙(0) 他の調査部面より 甲(0) 乙(0) 2.當期末人員数の内訳 支隊(2)担任 { 歩282連 136 124 輸重 252 独歩587大 21						

増減 已分	生存見込	死亡見込	死亡推定	状況不明			計
				有資料	無資料	小計	
前期末(當期初)人員数	130	83	0	(882)	(110)	992	1,205
當期別 已分 変更 の 更	①より生存見込	+3	/	/	(-3)	0	-3
	②より死亡見込	/	+67	/	(-67)	0	-67
	③より死亡推定	/	/	0	0	0	0
	無資料の有資料	/	/	/	(+37)	(-37)	0
	上記以外の已分変更	-3	-2	0	(+3)	(+2)	+5
増	死亡及び死亡確認	0	-9	0	(-8)	(-1)	-9
減	所属変更 轉入	+5	+1	0	(+13)	(+1)	+14
	(所属判明) 轉出	-3	-1	0	(-5)	(-3)	-8
況	削除(邦人海軍)	0	0	0	(-1)	0	-1
	歸還	0	0	0	0	(-1)	-1
計	+2	+56	0	(-31)	(-39)	-70	-12
當期末人員数	132	139	0	(851)	(71)	922	1,193
備考	1.調査担任 他の調査部面へ 甲(133) 乙(91) 他の調査部面より 甲(4) 乙(0)						

D表

ソ連関係地域地区別未復員者状況表

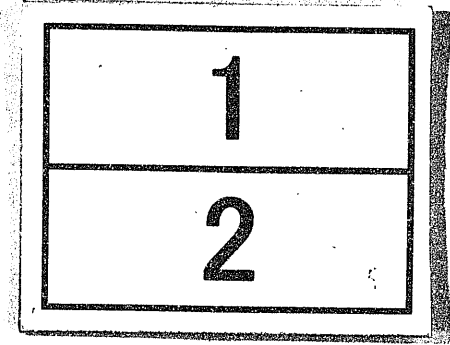
昭和27年3月末調

資料別 地区	生存 見込	死亡 見込	死亡 推定	状 況										合 計	總 計
				有 料						無 料					
				生存資料のあるもの			死亡資料のあるもの			所属判明		所属不明			
				昭和8 以前	昭和9 以後	小 計	戦 時 場 所	そ の 他	小 計	確 定	未 確 定	所 属 不 明	小 計		
シベリヤ	371	118	0	423	300	723	/	154	154	/	/	/	/	877	1366
千島及び樺太	3	2	0	1	1	2	1	1	2	1	0	0	1	5	10
北 韓	0	38	0	89	20	109	5	17	22	75	8	0	83	214	252
滿 洲	(1) 478	(1) 247	4	1633	128	1761	807	138	945	120	86	(1) 43	(1) 249	(1) 2955	(3) 3684
中 國	75	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	76
地区不明	/	/	/	/	/	/	/	/	/	2	0	2	4	4	4
計	(1) 527	(1) 406	4	2146	449	2595	813	310	1123	198	94	(1) 45	(1) 237	(1) 4055	(3) 5392

備考 ( )内は岐阜の所属不明者 inward 数である

別紙第五

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	



ソ連地底各軍別未復員者

状況一覽表

昭和27年3月末

方面別	生存見込				死亡見込				死亡推定				状況不明				無資料				總計										
	入	計			入	計			入	計			入	計			無資料	状況不明	入	計			入	計							
		①	②	③		①	②	戰場		計	①	②		戰場	計	①				②	戰場	計		①	②	戰場	計				
總數	373	(180)	554	927	119	135	152	406			4	4	775	(7)	952	868	2595	160	172	791	1123	337	4055	1427	(187)	1813	1815	337	5392		
第一軍	直轄	31	(7)	45	76	10	6	3	23					75		77	38	194	16	10	49	75	18	287	140	(7)	138	90	18	386	
	第三軍	30	(10)	57	87	18	20	21	59					140		127	90	357	31	17	55	103	38	498	219	(10)	221	166	38	646	
	第五軍	52	(6)	60	112	18	15	44	77			4	4	169		221	354	784	28	20	235	283	66	1133	267	(6)	316	677	66	1326	
	所属不明													1							1	1	6	8	2		2		6	10	
	計	113	(23)	163	276	51	41	68	160			4	4	389		425	522	1336	75	48	339	462	128	1926	628	(23)	677	933	128	2366	
第二軍	直轄	10	(5)	18	28	2	6	2	10					22		34	3	59	9	3	4	16	8	83	43	(5)	61	9	8	121	
	第三十軍	9	(4)	15	24	3			3					11		24	8	43	4	5	1	10	6	59	27	(4)	44	9	6	86	
	第四十四軍	12	(4)	10	22	4	2	7	13					21		43	64	128	10	12	62	84	11	223	47	(4)	67	133	11	258	
	第四軍	31	(13)	108	139	32	41	23	96					129		188	174	491	31	63	297	391	21	903	223	(13)	400	494	21	1138	
	所属不明																														1
計	62	(26)	152	214	41	49	32	122					183		285	249	721	54	83	364	501	46	1268	340	(26)	573	645	46	1604		
第三軍	關東軍直轄	137	(103)	94	231	14	17	11	42					102	(5)	103	66	271	12	18	59	89	36	396	265	(108)	232	136	36	669	
	朝鮮軍	7	(5)	12	19	1	2		3					3		18	2	23		3	1	4	2	29	11	(5)	35	3	2	51	
	直轄													7		11	5	23		4		6	1	30	10		18	6	1	35	
	第三軍	21	(13)	8	29	2	7	1	10					12		14	4	30		3	5	10	5	45	37	(13)	32	10	5	84	
	第五軍																						3	3						3	4
	75D. 10/1													3		3	1	7				2	2	9	3		15	5		13	
第五軍	10	(5)	2	14	2	1	1	4					11	(2)	2	1	14				7	1	22	28	(2)	2	3	1	29		
所属不明													1																	2	
計	175	(26)	119	294	20	31	16	67					139	(7)	151	79	369	21	29	68	118	48	535	355	(133)	330	163	48	896		

別紙第九

面別	生存資料				死亡資料				資料不明	計				計																				
	入	⑦	⑧	計	入	⑦	⑧	計		入	⑦	⑧	計		入	⑦	⑧	計																
總數	373	(180)	554	927	119	135	152	406										775	(7)	952	868	2525	160	172	291	1123	337	4055	1427	(187)	1813	1815	237	5392
第一課	直轄	31	(7)	45	76	14	6	3	23									75		77	38	194	16	10	49	75	18	287	140	(7)	138	90	18	386
	第三軍	30	(10)	57	87	18	20	21	59									100		127	90	357	31	17	55	103	38	498	219	(10)	221	166	38	640
	第五軍	52	(6)	60	112	18	15	44	77									169		221	354	784	28	20	235	283	66	1133	267	(6)	376	677	66	1326
	所屬不明			1	1	1				1								1				1			1	6	8	2		2		6	10	
	計	113	(23)	163	276	51	41	68	160									385		425	522	1336	75	48	329	462	128	1926	628	(23)	677	933	128	2366
第二課	直轄	10	(5)	18	28	2	6	2	10									22		34	3	59	9	3	4	16	8	83	43	(5)	61	9	8	121
	第三十軍	9	(4)	15	24	3			3									11		24	8	43	4	5	1	10	6	59	27	(4)	44	9	6	86
	第四十軍	12	(4)	10	22	4	2	7	13									21		43	64	128	10	12	62	84	11	223	47	(4)	67	133	11	258
	第四軍	31	(13)	108	139	32	41	23	96									129		188	174	491	31	63	297	391	21	903	223	(13)	400	494	21	1138
	所屬不明			1	1																													1
計	62	(26)	152	214	41	49	32	122									183		285	249	721	54	83	364	501	46	1268	340	(26)	573	645	46	1604	
第三課	關東軍直轄	137	(103)	94	231	14	17	11	42									102	(5)	103	66	271	12	18	59	89	36	396	265	(108)	232	136	36	669
	朝鮮軍	7	(5)	12	19	1	2		3									3		18	2	23		3	1	4	2	29	11	(5)	35	3	2	51
	直轄			1	1	1	2	1	4									7		11	5	23	2	4		6	1	30	10		18	6	1	35
	第三軍	21	(13)	8	29	2	7	1	10									12		14	4	30	2	3	5	10	5	45	37	(13)	32	10	5	84
	第五軍			1	1																						3	3			1		3	4
	75D. 10/6						2	2	4									3		3	1	7				2	2	9	3		15	5		13
	第五方軍	10	(5)	2	12	2	1	1	4									11	(2)	2	1	14				9	1	22	28	(2)	6	2	1	38
所屬不明			1	1													1																	2
計	175	(126)	119	294	20	31	16	67									139	(7)	151	79	369	21	29	68	118	48	535	355	(133)	330	163	48	896	
第四課	航空	18	(5)	100	118	7	8	36	51									50		72	11	133	10	10	19	39	69	241	85	(5)	190	66	69	410
	船舶	1		2	3		1		1									5		2		7			1	1	8	16	6		5	1	8	20
	所屬不明	3		7	10		1		1									7		6	6	19			1	1	2	22	10		15	6	2	33
	人員	1		11	12		4		4									2		7	1	10			1	1	36	47	3		23	1	36	63
計	23	(5)	120	143	7	14	36	57									64		87	18	169	10	12	20	42	115	326	104	(5)	233	74	115	526	

別紙第十

資料入手手段統計表(三月份) 石川屋支部

9810

世帯名		愛知	静岡	岐阜	三重	石川	富山	計
要 調 部 隊	他官公署より	1	25	4	8	2	5	45
	支部管内より	1	2	0	0	0	0	3
	団体調査により	17	0	5	8	9	12	51
非 要 調 部 隊	他官公署より	3	0	0	2	1	0	6
	支部管内より	0	0	0	0	0	0	0
	団体調査により	16	4	3	11	1	1	36
摘 要								

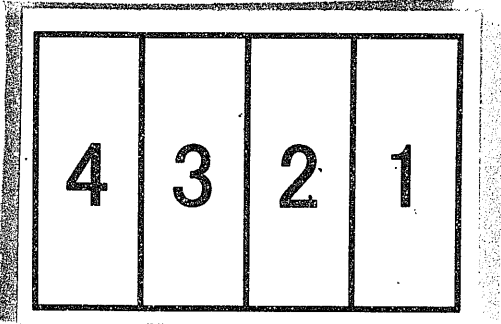
第十一

他官公署より受領せる部隊資料一覽表 (三月分)

昭和27年3月末

係 属 点 地				課 三		課 二		別 課					
南 樺 太	チ ン ハ ル	密 山 炭 坑	〃 三 病	延 吉 二 八 収	一 回 三 警 大	山 砲 七 九 連	4A	44A	〃 步	4A	部 隊 名	官 署 月 日 番 號	摘 要
							独 連 三 〇 大	一 九 野 貨 廠	二 五 三	独 連 一 五 五 旅 隊 大			
北 世	〃	西 後	〃	中 後	大 隊	宮 城	仙 丈 三 〇	山 口	熊 本 三 〇	福 丹 二 二 七	〃	〃	〃
3. 18	〃	3. 15	3. 13	3. 8	3. 15		3. 20		3. 18	二 〇 二 七	〃	〃	〃
二 七 世 四 三	〃	西 書	〃	中 後 全	政 世 六 九 九	世 二 五 一	東 連 仙 丈 調 九 〇	山 世 三 三 二	三 一 〇	福 世 二 一 〇 五	〃	〃	〃
南 樺 太 地 兵 調 査 成 果 資 料				延 吉 二 八 収 伊 藤 大 隊 に 関 する 資 料				〃				〃	
チ ン ハ ル 合 同 調 査 成 果 資 料				延 吉 二 八 収 伊 藤 大 隊 に 関 する 資 料				〃				〃	
密 山 炭 坑 周 邊 補 備 資 料				延 吉 二 八 収 伊 藤 大 隊 に 関 する 資 料				〃				〃	
〃				延 吉 二 八 収 伊 藤 大 隊 に 関 する 資 料				〃				〃	
〃				延 吉 二 八 収 伊 藤 大 隊 に 関 する 資 料				〃				〃	
〃				延 吉 二 八 収 伊 藤 大 隊 に 関 する 資 料				〃				〃	

# 分割撮影ターゲット

分割した  部分の  撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

昭和二十六年年度支隊で實施せる非要調査部隊調査成果一覽表 各支隊部

一 調査方針  
支隊管内にて最も重要と思はれる部隊を取り上げ、主として米級選者の基礎的資料を檢討して死亡資料ある者は死亡死亡資料を補充無資料者細部所属不明者は調査上の端緒を収集し尚部隊資料が不十分なものは支隊目から調査を実施して世話課或留守事務部の調査に協力する如くつとつた

二 調査の手段  
總て通信調査を以て実施し其の回答状況は平均50%である

三 調査成果及所見  
成果の概要は左の如くであり現段階に於ても通信調査に於て現(確)現(確)五枚(四)より資料を入手せるもの数件あり状況は概して調査の徹底を期する必要があると思はれる、特に無資料者細部所属不明者の大部が現地居住者で部隊でも顔馴染も少く又調査も好資料保有者のナ片寄つてゐる点に調査の死荷があると思はれるので此の点に考慮する必要がある

別隊 部 隊 通信調査 未回収率 未回収率 未回収率 未回収率

部 隊	調査対象	調査結果	備考
二龍馬廠	32	72 (26)	50%
二五野貨廠	20	61 (34)	38%
七七兵營	27	98 (55)	48%
兵動七七中	12	28	27%

既得資料の誤り等見  
既得資料の誤り等見  
既得資料の誤り等見

0188  
0189  
0190  
0191

独自 七〇人	五軍 臨時戦車隊 合独二二連 戦車中隊	独自一二三六 三軍司持 馬馬	置備 部隊	二五野 貨廠	兵動 七七中
10	3	5	15	20	12
145	29	48	123 (80)	61 (34)	28
49	17	29	45	23	16
34%	58%	60%	37%	38%	27%
入 轉 院 属	轉属 中間資料三二件	死推 轉属(入院)二 中間資料三二件		既得資料の 誤り等見 中間資料二四件	中間資料一七件
一 二					
乙幹の教育状況 各中隊好資料保有者 斐徳殘留人員 30A 轉属者 2644 東支支隊及先林支隊の轉属人員 の状況 2672 名支書ヤ四(八号)	1. 編成及人員差出状況の概要と把握 2. 戦中及戦後の行動の概要 3. 独二二連隊戦車中隊の一般状況 4. 要員の差出人員については概ね把握 出来たが人名については更に調査の要 あり特に二下候5Kよりの差出人員は 不明 5. 部隊は同戦後急遽編成せられたも ろ各隊のうちの要員が差出せられたる 関係上一般に顔なじみがある個々の人 名については一般に記憶がない故に個人 の状況と調査する上には相違の困難 性がある 6. 部隊は停戦の命令が徹底せず為る 者がある	1. 通知号の使用状況 2. 興隆間島に於ける部隊の兵器配 置状況 3. 三軍司三軍馬馬との関係 4. 独一三中隊が東軍旅団輜重に編 入したることを留意する 5. 終戦後数ヶ所を輸送隊として分遣 があり相互知らぬものが多い又(品)を利 用したる商隊者が相当数ある (213割) 6. 2672/30 現存者と充分掌握して る否か? (2672名支書ヤ三三三号)	1. 通知号の状況 2. 興隆間島に於ける部隊の兵器配 置状況 3. 三軍司三軍馬馬との関係 4. 独一三中隊が東軍旅団輜重に編 入したることを留意する 5. 終戦後数ヶ所を輸送隊として分遣 があり相互知らぬものが多い又(品)を利 用したる商隊者が相当数ある (213割) 6. 2672/30 現存者と充分掌握して る否か? (2672名支書ヤ三三三号)	1. 作大編入及入シ状況並入後の人員 変動状況 2. 未搬運者の大部は(タイセツト)収買 傷である 3. (収)関係の調査と窓に連繫して調 査することが必要である 4. 同一收容所に入つたものに對し總あり 調査が必要である (2672名支書ヤ四二二号)	1. 七七兵營との関連性 2. 所属判定資料 3. 編成経緯部隊の行動及補充状況 4. 七七兵營と同時同地で編成せられた 滿後(3)連同一地兵で同行動して るが使用通知号等も同一通知号を 使用してゐる為両部隊混同しやうい ふ凌満後(3)の補完交代があり同地 への利便の時期部隊通知号隊長 名等に注意を要する (2672名支書ヤ三三三号)

電 五 五 連	139D 共 大	139D 步 三 八 一 連	139D 步 三 八 一 連	独 自 七 〇 大
6	4	7	7	10
17 (9)	23 (15)	111 (81)	75 (35)	145
7	12	25	29	49
42%	52%	23%	39%	34%
入院 中間資料 九件	死見 中間資料 一	死見 中間資料 七件 所属判明 一	中間資料 二	轉属 入院 中間資料 三三 一 二
<p>6. 収入の調査と密に連繫が必要である</p> <p>5. 未収還者の大部は収入関係者である</p> <p>4. 私信に使用した検閲者</p> <p>3. 作大編入の状況</p> <p>2. 行動の概要</p> <p>1. 転居転入状況</p>	<p>26. 10. 27. 石支書才四五七号</p> <p>3. 基幹要員の把握所屬収還者の總数</p> <p>2. 一部の基幹要員は現地を名者</p> <p>1. 調査が必要である。主要幹部であつても個人の情報については全く知らぬ状況である</p>	<p>26. 10. 27. 石支書才四五八号</p> <p>4. 基幹要員の把握所屬収還者の總数</p> <p>3. 一部の基幹要員は現地を名者</p> <p>2. 調査が必要である。主要幹部であつても個人の情報については全く知らぬ状況である</p>	<p>26. 10. 25. 石支書才四五三号</p> <p>4. 基幹要員の把握所屬収還者の總数</p> <p>3. 一部の基幹要員は現地を名者</p> <p>2. 調査が必要である。主要幹部であつても個人の情報については全く知らぬ状況である</p>	<p>26. 10. 26. 石支書才四五四号</p> <p>4. 基幹要員の把握所屬収還者の總数</p> <p>3. 一部の基幹要員は現地を名者</p> <p>2. 調査が必要である。主要幹部であつても個人の情報については全く知らぬ状況である</p>



考 備	二			第	独 鉄 一七六	独 輜 七一中	電 五五連	139D 技 大	
	一 二五師 各 部 隊	独 混 一三旅 各 部 隊	一 回八師 各 部 隊						
	29	31	16	21	8	6	5	4	
	100	241	179	103	58	17 (9)	36 (24)	23 (15)	
		133	81	58	27	7	12	12	
		55%	45%	56%	47%	42%	33%	52%	
		資料推進 資料確認 資料更新 資料整理 資料廃止 資料保存 資料活用 資料利用 資料活用 資料活用 資料活用		資料推進 資料確認 資料更新 資料整理 資料廃止 資料保存 資料活用 資料利用 資料活用 資料活用 資料活用	資料推進 資料確認 資料更新 資料整理 資料廃止 資料保存 資料活用 資料利用 資料活用 資料活用 資料活用	資料推進 資料確認 資料更新 資料整理 資料廃止 資料保存 資料活用 資料利用 資料活用 資料活用 資料活用	資料推進 資料確認 資料更新 資料整理 資料廃止 資料保存 資料活用 資料利用 資料活用 資料活用 資料活用	資料推進 資料確認 資料更新 資料整理 資料廃止 資料保存 資料活用 資料利用 資料活用 資料活用 資料活用	
一通信調査係信簡 ( ) は督促状の奉送数で外数がある	目下成果整理中	旅団各部隊の編成概要並現地を 着の入隊状況部隊の行動概要を掌 握し その後の調査方法の資料を収集し 得る	旅団各部隊の編成概要並現地を 着の入隊状況部隊の行動概要を掌 握し その後の調査方法の資料を収集し 得る	旅団各部隊の編成概要並現地を 着の入隊状況部隊の行動概要を掌 握し その後の調査方法の資料を収集し 得る	旅団各部隊の編成概要並現地を 着の入隊状況部隊の行動概要を掌 握し その後の調査方法の資料を収集し 得る	旅団各部隊の編成概要並現地を 着の入隊状況部隊の行動概要を掌 握し その後の調査方法の資料を収集し 得る	旅団各部隊の編成概要並現地を 着の入隊状況部隊の行動概要を掌 握し その後の調査方法の資料を収集し 得る	旅団各部隊の編成概要並現地を 着の入隊状況部隊の行動概要を掌 握し その後の調査方法の資料を収集し 得る	旅団各部隊の編成概要並現地を 着の入隊状況部隊の行動概要を掌 握し その後の調査方法の資料を収集し 得る

附表第四

		支那管内(遺留品)護送状況表							石占屋支那 昭和27年3月末迄	
月別	管外 護送数	管内護送数							計	摘要
		愛知	静岡	岐阜	三重	石川	富山			
4月	4	0	0	2	0	0	0	2		
5月	2	2	(1) 2	(1) 3	(1) 4	(2) 1	(14) 2	(37) 14		
6月	2	0	3	0	2	0	0	5		
7月	0	0	0	0	0	0	0	0		
8月	0	0	(1) 1	0	0	0	0	(1) 1		
9月	(1) 2	3	(3) 3	(1)	(2) 4	0	0	(6) 10		
10月	0	0	0	0	0	3	1	4		
11月	0	3	0	1	0	0	(1) 1	(1) 5		
12月	(2) 1	(1) 1	1	2	1	2	1	(1) 8		
1月	0	0	2	0	0	0	0	2		
2月	0	3	1	1	1	0	0	6		
3月	1	1	(1)	(1)	0	0	0	(2) 2		
合計	(3) 12	(1) 13	(24) 13	(3) 10	(3) 12	(2) 6	(15) 5	(48) 59		
備考	( )は遺留品を示す									